

# 園長のまなざし

## 第11回

### 園長の恩返し

早川好江

秋の一日、園庭の片隅で、女の子たちの口ゲンカが始まりました。「だって、○ちゃんが悪いんでしょ」「違う！ △ちゃんの方が悪い！」間に入った◇ちゃんが「ねえ、こうしたら？」と取りなしても、二人とも聞く耳をもたず、言い争い続けます。思わず手が出そうな剣幕に、いったいどうなることかと様子を見ていましたら、突然、当事者二人が目を見合せて笑い出し「鉄棒しよう！」と三人で行ってしまいました。

何という子どもたちの問題解決能力！ 園庭で、廊下で、トラブルのにおいに引き寄せられてそばに行っても、たいていは見守っているだけで、仲直りしたり気持ち切り替えたり、自分たちで解決しています。

思えば担任時代、すねている子やケンカを始めた子たちに、こんなにゆったり付き合っていたかしら？

今まで受け持った子どもたちとのあんなシーン、こんな情景が後悔を伴ってよみがえってきます。もう少し、あそこで待っていられたら、ちゃんと自分で心に踏ん切りをつけて次に進めたでしょうに。ケンカ別れ



でなく、もう一度遊び始められたでしょうに。あの子どもこの子も気になって、さらに帰りの時間が迫っていたりすると、ちゃんと聞いて受け止めれば解決していたことも、「もう終わり！」と打ち切ってしまったました。

それは言ってみれば、お母様方が家事や兄弟の用事などで、時間に追われてしまうのと同じ。安らかな寝顔に「ああ今日も怒ってしまった」と後悔をするお母様方と同様、子どもたちの思いが満たされるようにかかれなかったことを何度反省したことでしょう。

そんな未熟な担任を「先生」として受け入れ、育ててくれた子どもたちに恩返しをするためにも、忙しい担任やお母様方が、少しでもゆとりをもって子どもたちと生活できるよう、あちらと思えばまたこちら、こちらと思えばまたあちらと、心の中でSOSを出している担任やお母様の助けになりたい、それが今、園長として願っていることの一つです。

(日出学園幼稚園)